組報
第6号

みなみ会

2007.3.1
No.6

浄土真宗本願寺派東京教区南組　大田区萩中1-11-24　善永寺内　TEL.3739-5641

南組 団体参拝のアルバム

P8 ― 真宗教室

しんらんさまってどんな方？

目次

1 ―― 旅のアルバム「南組団体参拝」
2 ―― 感想文「南組団体参拝に参加して」
3 ―― 門信徒運動の推進に向けて
総代・世話人の役割
6・7 ― ともにいのち かがやく世界へ
第四期　南組連続研修会終了式

P4・5

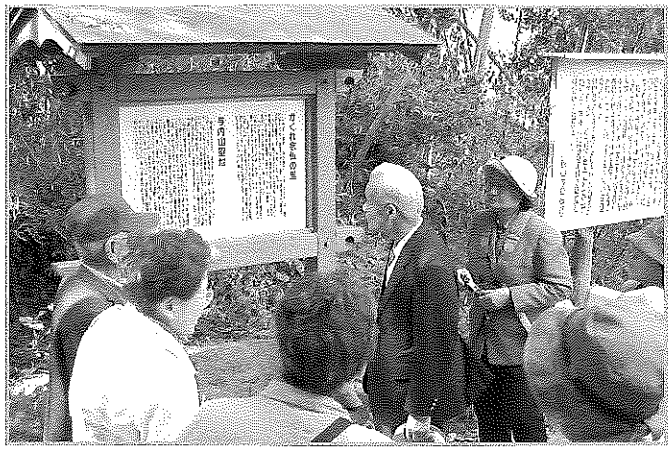
「親鸞聖人750回大遠忌についての消息」披露・記念法座

南組団体参拝に参加して

『熊本・人吉隠れ念仏と長崎～平和への誓いの旅～』

南組の団体参拝に参加するのは、今回で五回目。今まで熊本には行ったことがなかったので、とても楽しみにしていた。

初日は熊本別院を参拝後、昼食で熊本名物の馬刺し料理に舌鼓を打った。桃山様式の優美な回廊式の水前寺成趣園では、しばし絶景に見とれた。人吉蔵めぐりでは、みそ・しょうゆと焼酎の醸造所にて醸造過程を見学した。何れも人吉名産として独特の風味があり、それを造る人々の情熱と技術に感銘した。



二日目は人吉別院を参拝し、隠れ念仏の里の「与内山の首塚聖地」と「合戦峰伝助殉教地」を訪れた。殉教者「伝助さん」が不惜身命の思いで守ろうとしたお念仏の教え。その強い信念と血のにじむような伝道、また、それを語り継ぐ地元の古老にも感動した。今回、最も印象に残った場所だった。

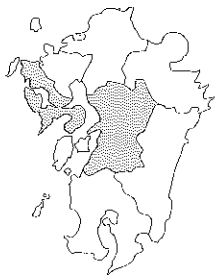
鬼池港より口之津港への連絡船は、海が荒れて大きく揺れたので、はらはらした。

雲仙岳災害記念館では、平成大噴火シアターにて、映像と連動して床が動き、吹き出す熱風など、自然災害の恐ろしさを疑似体験することができた。

夜は雲仙温泉の「宮崎旅館」でくつろいだ。平成十四年の佐賀旅行でお世話になった明圓寺住職が駆けつけて下さったり、宴会ではカラオケで大いに盛り上がり、楽しい一夜を過した。

最終日は長崎平和公園から原爆資料館に向かった。先ず玄関の沢山の折鶴に目を奪われた。各展示室を回り、改めて核兵器の恐ろしさを痛感した。

長崎中華街で昼食を食べた後、国指定史跡「出島和蘭商館跡」を見学した。鎖国時代、西洋に開かれた唯一の窓口として歴史的価値がある建物と街路を復元しており、日本の近代化に大きな役割を果たした遺産を見て往時を偲んだ。



最後に長崎会館を参拝。温かく熱の入ったお説教を拝聴した後、帰路へついた。

二泊三日はあっという間だったが、今回も貴重な体験をさせてもらった。

真光寺門徒
佐藤　昇二
（八十一歳）

〔二〇〇六（平成十八）年四月十九日～二十一日　九州／熊本・長崎方面　参加　二十三名〕

組巡回

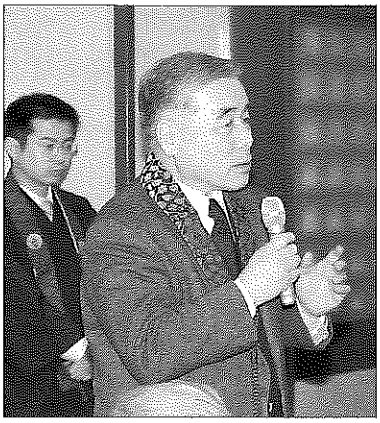
「門信徒運動の推進に向けて」

――地域社会における寺院活動のあり方――

組巡回とは、教区と組でお寺の現状・課題を共有し、今後進むべき方向を話し合う場です。教区の代表者と南組内の僧侶・門信徒が集まって積極的な意見交換が行われました。

南組では、仏教讃歌の合唱団を結成しているお寺が多くあり、仏教音楽を通じて地域との交流を深めています。

また住職が積極的に社会福祉活動を展開している寺院もありました。



お寺は聞法の道場であり、「歩みを共にする仲間に出会う」場、すなわち御同朋の寄り集う場であって、地域社会との関わりは重要です。

話し合いを通じて、お寺はどうあるべきなのか、あらためて気づかされました。

〔二〇〇六(平成十八)年二月二十五日　善永寺　参加　五十四名〕

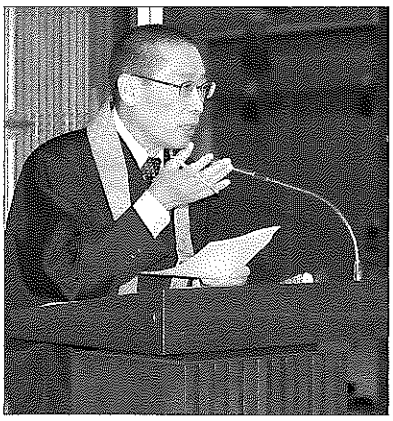
総代研修会

「総代・世話人の役割」

多田　恵章　師

総代・世話人の皆様には日頃から物心両面に渡ってご協力いただき、厚く御礼申し上げます。

宗法の第十八条に「門徒総代は、住職及び代表役員をたすけて寺院の護持発展に努めなければならない」とあります。地方では、お寺の行事の案内・準備等は総代・世話人の方々の協力により進められますが、都市では殆ど住職・寺族が行います。地域だけでなく時代の違いもあり、仏事・法要も家中心から個人中心となってきました。浄土真宗の地盤が大きく変わってきており、住職も総代さんも様々な苦労があります。



一般向けの仏事の本には「冥福を祈る」「戒名」「草葉の陰」など、浄土真宗では使われない言葉が多く記されています。総代・世話人の皆さまには、浄土真宗ではこうした言葉は使わないんだという事をぜひ心得て頂き、正しいみ教えが伝わるよう学びたいものです。

仏法は自分自身への問いかけであり、総代の皆様方にも生活信条を心の糧として日々の生活・言動に生かして自身に問うていくこと、聞法の場に己をもっていくことこそ肝要ではなかろうかと思います。

〔二〇〇六(平成十八)年四月十五日　参加　二十九名〕

南組「親鸞聖人七五〇回大遠忌についての消息」披露・記念法座

南組「親鸞聖人七五〇回大遠忌（おんき）についての消息（しょうそく）」披露・記念法座が、二〇〇六（平成十八）年十月二十一日（土）午後一時～四時、善永寺にて開催されました。第一部・式典で教務所長によりご消息が拝読され、組長が拝受しました。そして「ご消息をいただいて」の趣旨が演達されました。第二部・記念法座は初めに特命布教使南條了元師の記念布教があり、引き続き話し合いに移り、「宗祖大遠忌に向けて」をテーマにしたビデオ『新たな始まり～明日の宗門の基盤作り～』の視聴と活発な話し合いがもたれました。最後に参加者を代表して善永寺門徒入江照四氏による決意表明で全日程を終了しました。

〔二〇〇六（平成十八）年十月二十一日　善永寺　参加　六十五名〕

親鸞聖人七五〇回大遠忌についての消息

平成二十四年一月十六日は、宗祖親鸞聖人の七五〇回忌にあたります。本願寺では、ご修復を終えた御影堂において、親鸞聖人七五〇回大遠忌法要を平成二十三年四月よりお勤めすることになりました。このご勝縁に、聖人のご苦労をしのび、お徳を讃えるとともに、浄土真宗のみ教えを深く受けとめ、混迷の時代を導く灯火として、広く伝わるよう努めたいと思います。

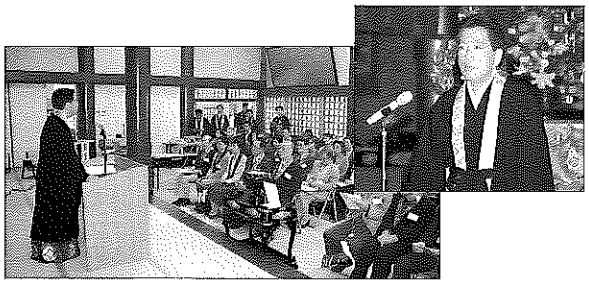
親鸞聖人は承安三年に御誕生になり、九歳で出家得度され、比叡山で学問と修行に励まれました。しかし、迷いを離れる道を見いだすことができず、二十九歳の時、聖徳太子の示現を得て、源空聖人に遇われ、本願を信じ、念仏する身となられました。三十五歳の時、承元の法難により、越後にご流罪となられますが、後にはご家族を伴って関東に移り、人びとと生活をともにし、自信教人信の道を歩まれました。晩年は京都で、ご本典の完成に努められるとともに、三帖和讃など多くの著述にお力を注がれ、九十歳を一期として往生の素懐を遂げられました。

親鸞聖人によって開かれた浄土真宗は、あらゆる人びとが、阿弥陀如来の本願力によって、往生成仏し、この世に還って迷えるものを救うためにはたらくという教えです。南無阿弥陀仏の名号を聞信するところに往生が定まり、報恩感謝の思いから、如来のお徳を讃える称名念仏の日々を過ごさせていただくのです。

仏教の説く縁起の道理が示すように、地上のあらゆる生物非生物は密接に繋がりを持っています。ところが今日では、人間中心の考えがいよいよ強まり、一部の人びとの利益

●ご消息の拝読と拝受

佐々木孝昭東京教区教務所長が「ご消息」を拝読後㊤、南組の高輪真澄組長に拝受した㊦。この後、佐々木教務所長が趣旨を演達した。



●記念法座

特命布教使の南條了元師が、親鸞聖人のご生涯とご事績を紹介しながら、「大遠忌に向けて、親鸞聖人が明らかにされたお念仏によって救われる教えを、私たちは新たに確認させていただき、共々に毎日の日暮らしをさせていただきましょう」と参加者に語りかけた。

追求が極端なまでに拡大され、世界的な格差を生じ、人類のみならず、さまざまな生物の存続が危うくなっています。さらに、急激　社会の変化で、一人ひとりのいのちの根本が揺らいでいるように思われます。私たちは世の流れに惑わされ、自ら迷いの人生を送っていることを忘れがちではないでしょうか。お念仏の人生とは、阿弥陀如来の智慧と慈悲とに照らされ包まれ、いのちあるものが敬い合い支え合って、往生浄土の道を歩むことであります。如来の智慧によって、争いの原因が人間の自己中心性にあることに気付かされ、心豊かに生きることのできる世の中、平和な世界を築くために貢献したいと思います。

私たちの先人は、厳しい時代にも、宗祖を敬慕し、聴聞に励まれ、愛山護法の思いとともに、助け合ってこられました。この良き伝統を受け継がなければなりません。しかしながら、今日、宗門を概観しますと、布教や儀礼と生活との間に隔たりが大きくなり、寺院の活動には門信徒が参加しにくく、また急激な人口の移動や世代の交替にも対応が困難になっています。

宗門では、このたびのご法要を機縁として、長期にわたる諸計画が立てられ、広く浄土真宗が伝わるよう取り組むことになっています。七〇〇回大遠忌に際して始められた門信徒会運動、重要な課題である同朋運動の精神を受け継ぎ、現代社会に応える宗門を築きたいと思います。そのためには、人びとの悩みや思いを受けとめ共有する広い心を養い、互いに支え合う組織を育て、み教えを伝えなければなりません。あわせて、時代に即応した組織機構の改革も必要であります。

それとともに、各寺各地で勤められる大遠忌法要を契機に、その地に適した寺院活動や門信徒の活動を、地域社会との交流を、そして、寺院活動の及ばない地域では、一層創意工夫をこらした活動を進めてくださるよう念願しております。

宗門の総合的な活動の新たな始まりとして、皆様の積極的なご協賛ご協力ご参加を心より期待いたします。

平成十七年
二〇〇五年　一月九日

龍谷門主　釋　即如

親鸞聖人
750回
大遠忌法要

本山日程

2011（平成23）年

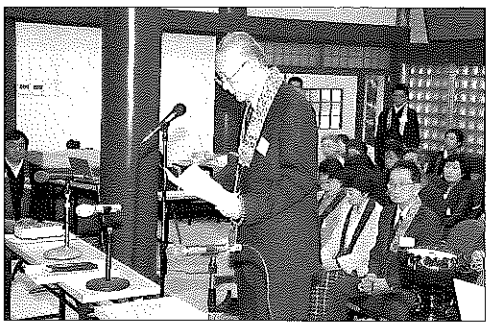
4月9日～16日
5月9日～16日
6月9日～16日
9月9日～16日
10月9日～16日
11月9日～16日
12月9日～16日

＊午前・午後の二座修行

＊7月・8月は、
青少年などの法要行事

2012（平成24）年

ご正当
1月9日逮夜～16日日中



●決意表明
参加者を代表して善永寺総代の入江照四氏が「大遠忌の宗門長期振興計画の重点項目には、首都圏における教線の拡充が掲げられており、東京教区の僧侶、門信徒の果たす役割は多い。ご消息を体して大遠忌法要の円成と振興計画、基幹運動の推進に南組一丸となって取り組みます」と決意表明した。

●「宗祖大遠忌に向けて」
プロジェクターを使って、ビデオ『新たな始まり～明日の宗門の基盤づくり～』を視聴したり、「話し合い」によって、教学・伝道の振興や寺院活動の推進、社会的活動の展開など大遠忌宗門長期振興計画の重点項目を確認した。

南組仏壮講座

「ともに いのち かがやく世界へ」

講師 西組 浄円寺 住職 芝田 正順 師

今回のテーマ「ともにいのちかがやく世界へ」は、平成二十三年に厳修される親鸞聖人七五〇回大遠忌に向けて、私たちの宗派が進めている基幹運動の新しいスローガンです。

「いのち」という言葉が、あえてひらがなになっていることが大変重要なことです。私たちが普通に漢字で書く「命」や「生命」は、人間という立場から見たもので、ひらがなの「いのち」は、仏さまの側から知らせていただいた私の本当の「いのち」と、味わわせていただけるのです。

人間として生まれ、死ぬまでの間だけが私のいのちではない。生まれる前からずっとつながっている、そして、私が死んでもずっとつながっていくいのちが、本当のいのち。ですから、「ともにいのちかがやく」といういのちは、自分のいのちだから好き勝手にしてもいいということではありません。私も皆さまも頂戴しているいのち。そのいのちをかがやかせていく世界を、私たちはもたせていただかなくてはなりません。

親鸞聖人は、お念仏の教えをよりどころとする私たちは、必ずお浄土に生まれさせていただける仲間になっていくことを明らかにしてくださっています。

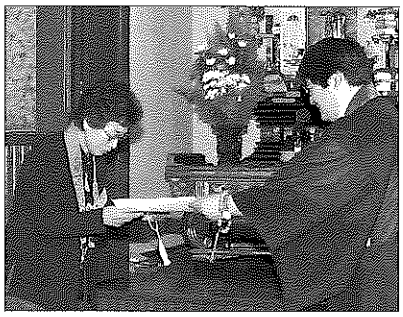
あるご縁で、こういうお言葉に触れさせていただきました。「戦争は他人事ではありません。私の大切な友人、知人が戦場にいるんだと思ったら戦争などはできません。同じように阿弥陀さまの願いが届いている仲間がいるとしたら、そこに戦争など起こせるはずはありません」と。それが「ともにいのちかがやく世界」ということなのです。

阿弥陀さまに願われ、今、お浄土にむかって歩ませていただいているこの私が、自らのこと、自らの周辺のことに少しでも意識を持ち、理想を実現しようとすることが、真のお念仏の行者ということです。その中から、「ともにいのちかがやく世界へ」というテーマを頂戴することができるのです。

〔二〇〇六(平成十八)年十月七日 築地別院・瑞鳳 参加 七十四名〕

第四期 南組連続研修会 修了式

二〇〇四年九月から始まりました第四期南組連続研修会(全十二回)も、二〇〇六年六月十七日に修了式を迎えることとなりました。最終回は高輪組長よりまとめのお話をいただき、四回以上出席の方に修了証が授与されました。



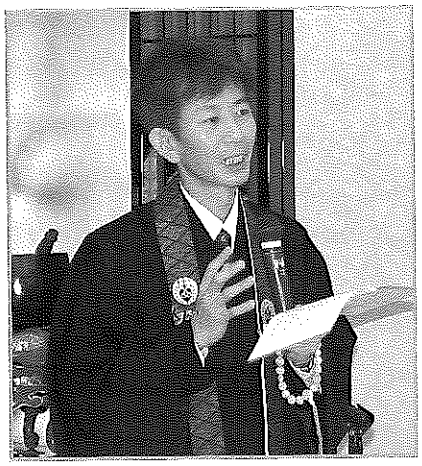
最徳寺 渡辺憲一
最徳寺 臼井善吉
光教寺 横山博
海岸寺 二ノ宮美智子
妙覚寺 楠顕男
妙覚寺 岸紀代子
善永寺 小林幸利
善永寺 古谷徳子

南組仏婦総会・研修会

「ともにいのちかがやく世界へ」

講師

中央相談員
神奈川組 高願寺 住職
宮本 義宣 師



私たちの浄土真宗では、基幹運動の目標として「御同朋の社会をめざして」を標語に長い間取り組んできました。基幹運動とは、教団に所属するすべての人びとが、私と教団のあり方を見直し、一人ひとりの苦悩に共感し、社会の現実に向きあって歩んでいこうという活動です。二〇一一（平成二十三）年には、親鸞聖人七五〇回大遠忌法要をお迎えするわけですが、それに向けて二〇〇五（平成十七）年からのスローガンとして「ともにいのちかがやく世界へ」が新たに定められました。

「『いのちは大切だ』『いのちを大切に』そんなこと何千、何万回言われるより、『あなたが大切だ』誰かがそう言ってくれたらそれだけで生きてゆける」

これは先日、あるテレビコマーシャルで使われていたことばです。私たちのスローガンも、いのちは大切だ、いのちを大切に、だけではただのきれい事で終わってしまいます。「あなたが大切だから、あなたの悲しみが消えるまで私の悲しみが消えることはないのです」という阿弥陀さまのあたたかい気持ちをいただく私たちだからこそ、もう一歩踏み込んで、ひとりひとりがお互いに「あなたが大切だ」ということを言葉や態度、行動で伝えていかなくてなりません。

今は子どもたちに人を信じることを教えるのが難しくなってきた時代だと言われます。身近な人によって起こされる事件も多く報道されております。しかし、だからこそ、あなたのことを守っている私たちがここにいるのだよということを強く伝えてゆかなければなりません。煩悩があるから社会の差別や事件、戦争はなくならないのだとあきらめずに、向き合ってゆかなければなりません。

迷ったり困難にぶつかったりする日常生活を離れたところに、親鸞聖人が説かれた浄土真宗のみ教えはありません。お浄土とはわたしのいのちの還ってゆくところであると同時に、「あなたが大切だよ」と呼びかけてくださるはたらきのみなもとでもあるのです。

（二〇〇六（平成十八）年六月五日
築地別院・瑞鳳　参加　六十名）

浄興寺 尾作 実
浄興寺 楚山 利雄
浄興寺 志水 光子
浄興寺 野中 照代
浄興寺 室屋 セツ子
浄興寺 西元 晶世
浄興寺 清水 はりえ
唯称寺 河野 良子
唯称寺 宮野 千恵子
唯称寺 結城 カヅエ
唯称寺 細川 久信
唯称寺 森田 宗美
唯称寺 山川 昇子
唯称寺 手島 隆子
唯称寺 吉松 圭介
唯称寺 若島 信子
唯称寺 坂井 サチヨ
唯称寺 上林 智子
西教寺 沢田 義一
西教寺 村主 博
西教寺 高橋 ます子

（敬称略）

ご参加ありがとうございました。